



光桂寺だより

第208号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

お盆を迎える

今年が気候不順といえるような天候が続いており、ある面「亜熱帯化」しているのかもしれない。お年寄りや子どもさんに関係なく「熱中症」を引き起こす状態となっています。

世の中も何かと熱を帯びています。世界中の国家間もきな臭い匂いを漂わせていることは、とても心配なことです。

国内も今年から来年にかけて、世の中を騒然とさせるかもしれない事が、目白押しで待っています。参議院議員選挙、消費税（値上げか据え置きか？）、年金問題（引き下げか据え置きか？）、北朝鮮問題、景気の動向、石油価格の動向、衆議院解散？、外国人労働者の受け入れなどなど・・・。

まだまだあると思いますが、問題山積ということでしょうか。さてこのような中、今年もお盆が巡って参りました。私の「いのち」が、命の繋がりの中で生きています。このことをどうかしみじみ感ずるお盆の期間となることを願っています。

さて真宗におけるお盆についての考え方は、私たちの「いのち」を支えてくださっている、あらゆるご恩に感謝をし、いま生かされている幸せを喜び、感謝の念仏を申させていただくというところであります。

単なる先祖供養ということではありません。お盆は「亡き人を案じるより、亡き人から案じられている我が身」に気付くことが求められるのであります。

お盆を通して私の「いのち」が、亡き人とおして、生かされていることに気付かされることこそ供養ということでもあります。

お盆は真宗では、八月十三日から十六日までの四日間を言います。

◎お盆のおかざり

門徒ものしり手帳の次のページをご覧ください
P7…意義、作法の全般 P36…きりこ
を参照ください

金属の仏具（花瓶やロウソクたては、陶器のものは使いません）を金属磨きで丁寧にみがき、お内佛（仏壇）には内敷（うちしきー三角形の布）を掛けます。出来れば夏物（白地）を用意ください。

1. お花は、マキや松、ひのきを真（シン）にして、季節の花を添えて立てます。
2. お内佛（仏壇）内部のお供えは、小餅やおだんごなど、をお供えします。
3. お内佛（仏壇）の中には、お茶、お水、お酒、ビールのはち、などをお供えしません。
4. 仏前には、調理をしたお膳や折詰めなどはお供えしません。
5. 盆提灯としては、真宗では「きりこ」を掛けます。
6. 迎え火、送り火は真宗ではいたしません。



お盆供養、全戦没者追悼法要、盆踊りをいたします

左記のように執り行ないますので、ご参詣くださるようご案内申し上げます。

○八月十日（土）盆踊り
午後六時半より 光桂寺境内で

「盆踊り」は、保育園児を中心に光桂寺境内でいたします。合わせて保育園の『夏祭り』の「夜店」も、あります。

スケジュール
「夏祭り」 十三時開始
「盆踊り」 十五時四十五分より



※小郡市花火大会のため、夏祭りの夜店終了は十六時

○八月十一日（日）
盆供養、全戦没者追悼法要
おつとめ 午前九時



駐車場の利用について

光桂寺への参詣、納骨堂への参拝をされる場合、納骨堂前の駐車場は手狭ですので混雑します。混雑している場合はご面倒ながら、県道の「味坂保育園前」信号機の西側（端間）に向い左側、北野に向い右側）の駐車場も是非ご利用ください。保育園の保護者も利用しますが、本来は「光桂寺駐車場」ですので、参詣参拝の方々は、遠慮なくご利用ください。

初盆について

光桂寺としましては、亡くなられて初めて迎えるお盆を、「初盆」と考え、中陰（四十九日）が過ぎていなくても、初盆としてお参りいたします。ただし、葬儀がお盆直近の場合は、一年後に伸ばす場合もあります。

初盆のお参りは、原則お盆の初日、八月十三日で考えていますが、十三日以前でも差し支えありません。その場合は、前もって希望の日をお知らせ下さい。

なお初盆にお参りにする時間につきましては、効率よく廻るため、順序を毎年八月初めまでに決め、それからお知らせするようにしております。皆様のご希望の時間にお参りできない事もありますので、その旨ご承知おきください

初盆を迎える方々



春の永代経講話

「源 大信」先生は、永代経こそ真実に出会う場という内容でお話くださった。

世の中の「しくみ」に目ざめられたのがお釈迦様。救おうとされるのがアミダさまである。アミダさまの心を教えてくださったものをお経（教え）という。これまでこの教えを伝えてくださった先祖のご苦労の心を聞かせてくださるのが、永代経の法要である。

お経は縦糸で、その縦糸に環境や体験の横糸

で織り成していくのが私たちの人生である。煩惱は自己中心の心である。アミダさまはそのような私を救おうと願をかけておられる。貴方のところが悪いのではない。悪心は色んなご縁の中で育つたのである。

諸行無常、すべて移り変わる。生きていたのがたまたま、生かされて生きていたのである。死は必然である。このような私達を助けるぞとアミダさまが呼んでくださっている。助けずにはおれない、あなたのことが大切ですよと働き続けてくださっている。

本当に大事にされると、恥ずかしいとかしつかりしないと、という心が起こる。真実に出会うと心は変わるのである。真実を真実と知った時に心は変わる。事実を事実、真実を真実と知ったら心は変わる。真実を代々聞かせていただいたご縁が永代経である。



分りやすいたとえ話として、次のようなお話をされた。

- ・バス車内での話
- ・事実を知る事で心は変わる。
- ・我が子の子ども時代の作文の話
- ・真実の自分の過去を炙り出してくれた作文
- ・信心深い、自分を尊敬してくれたご門徒の

老人の話

心に触れる体験をすると、我が心は変わる

・鶴の恩返しの話(民話)

欲深いと何が起こるか分からない

永代経志ご寄付者ご芳名

誠にありがとうございました。

先達のことば

仏教婦人会総会(三・十八)での講師(蒲原稔彦師)のレジメより抜粋しました。

先達のことば I (伊藤 元師)

苦しむ事は人間として不幸なこととは思いません。

本当に苦しまなきゃいけない事を教えてもらって苦しんでいく事は幸せな事です。

苦しまないでいい事に苦しむのは不幸な事。

苦しむ事とか悲しむ事、そういう体験が人間を不幸にすることは絶対無いです。

先達のことば II (相田みつお師)

セトモノとセトモノと

ぶつかりっこすると

すぐこわれちゃう

どつちかやわらければ だいじょうぶ

やわらかいところを もちましよう

そういうわたしは いつもセトモノ

先達のことば III (松本 梶丸師)

教えられるこの身(自分)を外せば、人はいつも吉凶禍福におびやかされ、靈に惑わされる。もとより、そういうものがあるのではない。吉凶禍福という言葉を知り、靈という言葉で覚えた人間の知恵分別にこそ、おびやかされ、惑わされるのである。

人間とはなんと愚かな存在であろう。人間が畜生と呼んでいる犬や猫に迷うがあるだろうか。分別のつかない幼子に惑いやとらわれがあるのだろうか。迷うのは知恵分別が身に付いた賢い大人だけではないか。

「仏さまの教えに出遭って、迷っていたのは、自分のはからいだと気づかされるのですね。仏さまの教えに出遭って、初めて素直でない、身勝手な自分が見えてくるのですね。人間は教えられないと、自分が悪かったと目が覚めないものですね」

あるお年寄りの言葉である。この素朴な言葉の背景には、正しい教えに出遭って、この身が教えられた静かなよろこびがあふれている。

門徒会館建設小委員会メンバーの選任を進めています

二〇七号で既にお知らせいたしておりましたが、門徒会館建設小委員会の立ち上げに向けて、只今人選中でありま。十〜十五名の方を選び話を進めていただきます。

婦人会追弔会のお知らせ

期日 九月二十日(金)

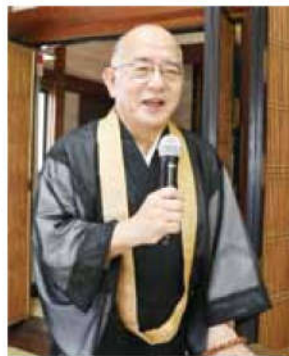
○十三時より追弔会

○十四時より法話

講師 西宗 寺

蒲原 稔彦先生

昨年のこの時期から今年までに亡くなられた、光桂寺仏教婦人会の会員の方々の追弔法要であります。法要（お勤め）と法話があります。



講師紹介
大川市「西宗寺」
14代目住職
蒲原 稔彦 師

豊富な人生経験とたくましい生き方で、これまでの色々な試練を乗り越ってこられています。

上山奉仕団参加者を募集します

昨年までは総代さんを中心に参加していただいていたのですが、広く門徒の皆さんからも募集いたします。興味のある方は光桂寺までご連絡ください。

期 日 二〇一九年十一月二日(土)

四日(月)

場 所 東本願寺同朋会館

募集人員 二十名程度(参加人数には制限あり)

参加費 未定



東本願寺境内 右御影堂 左阿弥陀堂

謹んでおくやみ申し上げます

納骨堂のお供え

納骨堂内の各自の前面に、お供えやお花(生花も造花も)は、管理上支障がありますので申し訳ありませんが、絶対にご遠慮ください。手ぶらでのお参りを願います。

生花をお持込の場合のみ、ご面倒ながら納骨堂入り口前の、花立てに立てていただければ幸いです。



門徒ものしり手帳の活用をお願いします

親鸞さまの教えでは、人間として仏法を知らないという事は、決して許されることではないと仰っています。仏法を「知らないは一生の恥」と肝に銘じていただきたいと思います。

仏法を知る一つとして、聞法(仏法の話を知ること)ということがありますが、もう一つ仏法を知るためには、仏事ごとに関して知ることが大事です。仏事ごとに関しては、大方のことは「門徒もの知り手帳」に盛り込んだつもりです。よくよくよんでいただきますようお願いいたします。なお「門徒もの知り手帳」の中で、内容が分りにくいことや、写真やイラストがこれでは理解できないことなど、分らないことや疑問点がありましたら、是非教えてください。改めて分かり易く説明をしたいと思っておりますので、よろしく願います。